2022年8月18日（木）　織田　信長新聞　第1号

織田信長新聞

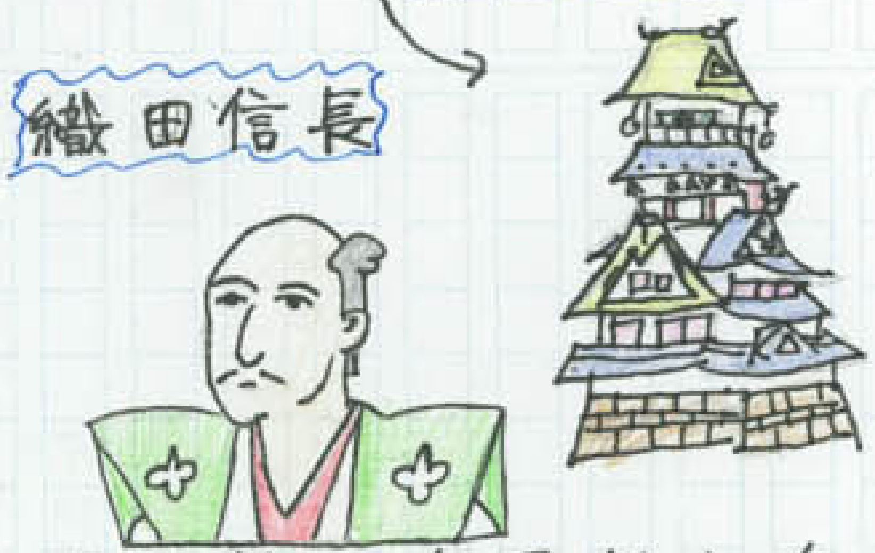
音更町立共栄中学校　1年B組13番　島田心菜

「大うつけ」と呼ばれた信長

若い頃の信長は、派手な身なりで悪ふざけをしており、その行動が城下町では目立ったため、人々からは、「大うつけ（大馬鹿者）」と言われていた。このことは、信長の家臣である太田牛一が著した「信長公記」に記されている。

信長の生涯

・1534年～尾張に生まれる
・1548年～濃姫と結婚
・1551年～織田家を継ぐ
・1560年～桶狭間の戦い
…
・1575年～長篠の戦い
・1576年～安土城を築く
・1582年～本能寺の変　49歳だった



天下統一を目指した戦国・安土桃山時代の武将

織田信長の戦い

信長の戦いの中から2つ紹介。

1. 桶狭間の戦い

1つ目は、桶狭間の戦い。今川義元が攻めて来たことで始まったこの戦いで、信長に勝ち目はないとされていた。だが、敵の隊を突き、今川義元だけを狙って戦った信長たちの勝利。この勝利によって織田信長の名が広まった。

2. 長篠の戦い

2つ目は、長篠の戦い。織田・徳川連合軍と武田軍が戦った。強力な騎馬隊が有名の武田軍に対し信長は、たくさんの鉄砲を有効に活用する「三段撃ち」を編み出した。この作戦が上手くいき、長篠の戦いは織田・徳川連合軍の勝利で終わった。

敦盛って何？

敦盛とは、伝統芸能「幸若舞」の演目のひとつで、信長が好んで舞っていた。信長公記には、桶狭間の戦いの直前に舞ったという記録が残されている。この舞の振り付けはほとんど伝わっておらず、信長がどんな振り付けで舞っていたのかはわかっていない。

ミステリアスな大事件…

1582年に起きた大事件こそが「本能寺の変」。この本能寺の変は、当時京都の本能寺に宿泊していた信長を、家臣である明智光秀が裏切って襲撃し、自分が死ぬことを悟った信長が寺に火をつけ自害したという事件。この事件にはいくつか謎がある。まずは、本能寺から信長の遺体が見つかっていないこと。明智光秀が遺体を探索させるも、結局見つけられずに終わった。次に、なぜ明智光秀は本能寺の変を起こしたのか。これは、いろいろな説がある。代表的なのが、「野望説」、「怨恨説」、「恐怖説」「黒幕説」などがある。

信長のエピソード

数多くのエピソードから、いくつか紹介。

「父の葬儀で抹香を投げつける」

父の葬儀に不適切な身なりで参列し、焼香の際に抹香をわしづかみにして仏前へ投げつけたという話。それと反対に弟・信勝は正装をし、礼儀正しい作法だった。参列者は信長のことを「大馬鹿者」と口々にした。

他に…

「ほぼ全ての人を貴様と呼んでいた」
「歩きながら食べ物を食べており、その中でも干し柿が大好物！」
などなど

攻撃を一点に集約せよ、無駄なことはするな。

これは、いくつかある信長の名言の一つ。やるべきこと以外の無駄なことはするな、という意味がある。

他に有名なのが、「鳴かぬなら殺してしまえホトトギス」という俳句や、「絶対は絶対にない」など。

編集後記

今回、織田信長のことを調べてみると、幼い頃は大うつけと呼ばれていた、甘いものが大好きだったなど、意外なところが分かった。また、本能寺の変に、謎がいくつかあったのを知らなかったので驚いた。

新聞にまとめるときは、色を使ったりして見やすいようにするのが、けっこう難しかった。